

プラザ

第 42 回医科学フォーラム The 42nd Medical Science Forum (MSF)

大 平 達 夫¹⁾ 黒 田 雅 彦²⁾
Tatsuo OHIRA¹⁾, Masahiko KURODA²⁾

オーガナイザー

¹⁾東京医科大学外科学第一講座

²⁾東京医科大学分子病理学講座

第 42 回医科学フォーラムは、3 月 25 日に東京医科大学病院教育棟にて開催された。テーマは、がん幹細胞に関する話題を取り上げた。幹細胞研究は、京都大学の山中教授による人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) のノーベル賞受賞やがん細胞にも幹細胞が存在することなどから現在大変な注目が集まっている。そのような背景の中、横浜市立大学医学部微生物学講座の梁 明秀教授に「人工癌幹細胞の作製と応用」というタイトルで講演をお願いした。講演は、がん幹細胞の発見の歴史から現在の幹細胞の研究の流れまで約 1 時間にわたって幅広い内容であった。とくに今回の主題である人工癌幹細胞は、正常のヒト乳管上皮細胞から、山中因子を導入して作製されたものである。この人工的な細胞は、いわゆる癌幹細胞の性質を有しており、さらにこれまでのがん幹細胞と違い、活発に分裂を繰り返すことが大変興味深い。今後、この細胞を用いることで、がん幹細胞に対する診断や治療研究が容易になることが期待される。発表後には、基礎、臨床講座の参加者による質疑応答が活発になされた。また、フォーラムの講演終了後には、会場を病院 6F に移して懇親会が開催された。短い時間ではあったが、講演者の梁教授を囲んで和やかに情報交換が行われた。

今回のフォーラムでは、約 70 名と最近では最も多くの職員や学生に参加を頂いた。各自お忙しい中これだけ多くの参加者がいたことは、東京医科大学の医学研究の発展にとって心強いものである。医科

学フォーラムは、本開催で 42 回を数えるに至ったが、トランスレーショナルリサーチの重要性が指摘されるなか、まさに基礎と臨床の連携を目指す意味においてその意義は大きいと考える。

(文責 黒田雅彦)

